

『お 金 を 残 す 経 営 』

高邁な理想を語り、経営理念を高らかに宣言することは、社長として非常に重要なことです。自ら率先垂範し、社員を鼓舞し、売上を上げ、会社を未来永劫に渡し、発展成長させることが、社長の使命でもあります。

それを実現するには、『お金』が必要であり、『お金』が担保であり、『お金』が保障であることも、冷厳な現実です。

いざという時に、強い会社は、『お金』すなわち資金力が潤沢な会社です。

たとえば、予期しない外部環境の大変化・大災害・あるいは大不況が襲い、仕事が出来ず、社員を自宅待機させるような事態が起こったとしましょう。

この時、わが社に、一年分の給料が支払える資金があれば、慌てません。

経営の目的である、「社員を守る」ことができます。日頃、どんなことがあっても、社員を守る！と、口癖のように語る社長が、本物かニセモノかが証明されるのです。

『お金』を、貯めるのには、10年かかる「ロングスパン」で考えるということです。損益計算書は、1年間の成績ですが、バランスシートを良くするのは、10年かかると言われる所以です。

『お金』を貯めるには、利益が出たときに、費消しないことです。心優しい社長は、出た利益を、社員みんなに還元してあげたい、日頃の苦勞に応じてあげたい、と思うのです。目先の誘惑に負けないことです。

また、土地・建物は、極力持たないことです。設備でさえ、外注に回すべきです。

資産の取得は、大切な資金が長期に渡り寝ることであり、『お金』を貯めることと、真逆の行為なのです。

これからの時代は、インフレは期待できません。デフレ基調のままでしょう。土地の値上がりはあっても、値上がりはありません。

もう一つ、社長が越えなければならない、高いハードルがあります。それが、税金です。税金は「コスト」と、割り切ることができるかどうかです。税金が、もったいないと、思っている間は『お金』は、絶対に貯まりません。

その時に、社長が“長期的”“総合的”“根本的”な視野を持ち、社員みんなに、伝えることです。「今回出た利益は、将来のため、いざという時のために貯蓄に回したい。決して、他に使ったり、ゆめゆめ私物化したりしません。だから、理解して欲しい」と、熱く語るのです。憎まれ役は、社長しかできないのです。

これが、いざという時に、使える資金となるのです。

これからの正しい経営は、『お金を残す経営』です。社長の、覚悟が問われます。

我々、中央総研は、そんな社長の味方です！



今月のポイント

ダム式経営の実践